

匿名

匿名には大きくわけて、2つの側面がある。

ひとつは、文字通り、その身分姓名を秘匿して広く狭く世間に**貢献**するものをいう。この場合でも2つにわけられる。

ひとつは、いい意味でも悪い意味でも全く自分に戻ってこない、つまり、ある事柄を実行するとき、なんら見返りを期待しないものである。知られることさえ拒否するものである。本当の意味のボランティアがそれである。

今ひとつは、たとえば今回の三笠フーズであったり、雪印であったり、赤福であったり、要するに**内部告発**を行うことによって、自らの会社の倒産など自分にも火の粉がかかってくるものであるが、それを凌駕するだけの社会に対する貢献がみとめられるもの、をいう。・・・かつて西宮冷蔵の社長が不正を暴いたとき、アホウの裁判官が有罪と判断し、さらには顧客からのキャンセルのため、倒産した経緯がある。・・・このあたりが、裁判官の能力が問われるところであり、なんのための裁判なのか本質を理解できていないため、「法」に照らして有罪か無罪かだけしか判断しようとしなない、「虚け者」(ウツケモノ) である。

もうひとつの側面は、「特に名を秘すことによって、みずからが反撃されることから逃げる」きわめて卑怯・卑劣な場合である。他人のした行為を正々堂々と非難することなく、自分は隠れて責任逃れをするもので、**小生がもっとも嫌っているもののひとつである。**

このホーム・ページでも、「木村の・・・」を書いたが、匿名で意味のない指摘をするものが次々と現れて、なにが言いたいのかわからない。書いたこと以外のことを教えてくれるつもりなら、それは余計なお世話である。オレが知らないはずがないやろ！ もともとあの文章を書いたのは、柔道のことについての**単なる術学趣味だけ**で書いたわけではないのである。本質を理解できない連中と語ってもなんの得るところがないが、あれは、「**オレの・・・**」の意味も含んでいるのである。おれが、古流柔術や花の講道館の鬼横山と永岡秀一の確執云々を知らないわけがない。それを「匿名」で書くから不愉快になるだけの話。・・・ということで、やむなく抹消いたします。このあたり、面白い血湧き肉踊る話は山とあります。

昔、名前は忘れたのだが東京のコントで、親子の対立をしていた。父親の甲斐性のないことを息子が責めると、「おとうさんはな。日本競馬協会をつうじて、恵まれない人たちに多額の寄付をしているん

だぞ！　しかも匿名で！」・・・思わず笑った。・・・こんな人、ようけていますやろ。

一連の三笠フーズがらみの事件について一言。

昔から、毒を盛って意に添わぬ相手を抹殺しようとする連中にはいくらでもいる。近くは、農薬や睡眠薬を食物に混ぜて毒殺しようとした者、和歌山の砒素カレー事件は保険金詐取のため自分の母親までも殺害(?)したようなの、名張の毒ぶどう酒事件、古くは帝銀事件。もっと古くは、江戸時代からあり、家来が言うことを聴かない藩主に一服盛る、など。長藩の藩主は「そうせい候」と呼ばれていたと言うが、藩主から言わせれば「反対などしようものなら、オレはとっくに一服盛られているワイ」島津斉彬侯など、西郷はずっとそう思い続けていたし、どうもその節もある。

しかし、上記いずれも対象は限られている。砒素カレーでさえ、個人が対象ではないが、村人全体が対象である。ところが、今回の三笠フーズ事件は、何をとち狂ったか、**オウム真理教の無差別テロ事件**と同様の事件であり、「無差別」である。本当の意味での「不特定多数」が対象であり、場合によれば（注意はしているだろうが）自分や自分の家族、子供や孫にまで累が及ぶ可能性があるという点

で特異なものである。金儲けだけが目的になれば、このような結果は眼に見えている。産地偽装など、まだバレていないだけで**業種の種類**だけあるだろう。つまり、オウム以外では、質がまったく異なるものである。恐ろしい世の中になったものだ、というのが実感である。そういう意味では、日本もそんな時代になったのか、という驚きである。マスメディアは本質がわからないから（理解力が悪いから）すべて同じレベルのものと判断して、よく似た報道しかできない。

たとえば、ベトナム米は**農薬まみれ**のような印象を与えようとしているが、ベトナムは米国との独立をかけた戦争で枯葉剤にさらされた国民である。意味もなくむちゃくちゃ使用するわけがないじゃないか。農民が言う、**農薬を使えば収量が 2 倍になる**、と。そして日本向けの米の残留農薬の測定は日本側がしている。ベトナム国民はタッチできないようになっている。・・・農薬漬けと農水省については、モラルの崩壊の稿で少し書いた。まだ書くつもりですが。

グリコ森永事件とは本質的に異なるもので、あれは、「毒」を混入させたことが重要な意味をもっているものであった。単なる脅迫・恐喝に意味があったのである。

2008.10.18.